

左ノ汕頭地震調査報告書ハ近藤臺北測候所長ヨ
リ本會ヘ寄セラレタルモノナリ

大正七年二月十三日汕頭地方 大震報告

今回汕頭地方震災ニ就キ小官等出張ヲ命セラレ親シク震災地ヲ視察
シタル結果並ニ今回ノ地震ニ關スル諸調査ヲ集メ以テ本報告トス

臺北測候所長 近藤久次郎
同 技手 寺本貞吉

領臺以來本島ニ於テハ屢々強烈ナル地震ヲ起セシモ一衣帶水
ヲ隔テタル對岸福建廣東ノ兩省地方ニ在テハ更ニ強震ヲ聞カ
ス地震ニ對シ頗ル安定ナル地ナリキ別冊地震年表ニ由レハ近
代ノモノヲ缺ケトモ同地方モ亦往昔ニハ強震ノ記事ヲ存シ又
近年ニ於テモ全ク地震ナキニアラス偶々微震ヲ感スルコトア
リト云フ汕頭港ハ六七十年ノ發達ニシテ同地方人ハ全ク強震
ヲ知ラス從テ地震ニ對スル觀念ナク家屋建築ニ就キ寸毫モ地
震ヲ顧慮セス土塊ヲ以テ二階三階ノ家屋ヲ建築シ然カモ其多
クハ木石煉瓦等ノ柱ヲ用ヒス最脆弱ナルモノナリシ爲メ今回
ノ地震ニ際シ倒壊破損ノ慘狀見ルニ忍ヒサルモノアリ元來支
那ハ警察アリテ警察ナク全ク有名無實ナリ加フルニ潮州汕頭

一帶ノ地ハ昨年十二月南北兩軍ノ戰場トナリ一時掠奪ヲ擅ニ
セラレ今日ハ僅カニ南軍ノ兵士ニ依テ秩序ヲ維持シ震災ノ統
計ヲ得ルカ如キハ到底望ム可ラス各地ノ狀況モ詳細ハ知ル能
ハス僅カニ支那的誇張ノ新聞記事及些少ナル見聞ヲ基礎トシ
テ今回ノ地震ヲ調査スルニ止マリ遺憾トスル所甚タ多キモ亦
止ムヲ得サルナリ左ニ既報ト重複スルモノアルモ調査ノ結果
ヲ報告ス

發震時 臺北ニ於テ普通地震計ニ依テ感シタル發震時ハ十三
日午後二時八分四十四秒ナリ更ニ各地ニ於ケル大森式地動計
ニ依ル發震時ヲ舉クレハ左ノ如シ

澎湖島	十三日午後二時七分六秒	臺北	十三日午後二時八分三三秒
臺南	午後二時七分四三秒	徐家滙	同
恒春	午後二時八分〇秒	大阪	同
臺中	午後二時八分七秒	東京	同
臺東	同	午後二時一分一二秒	

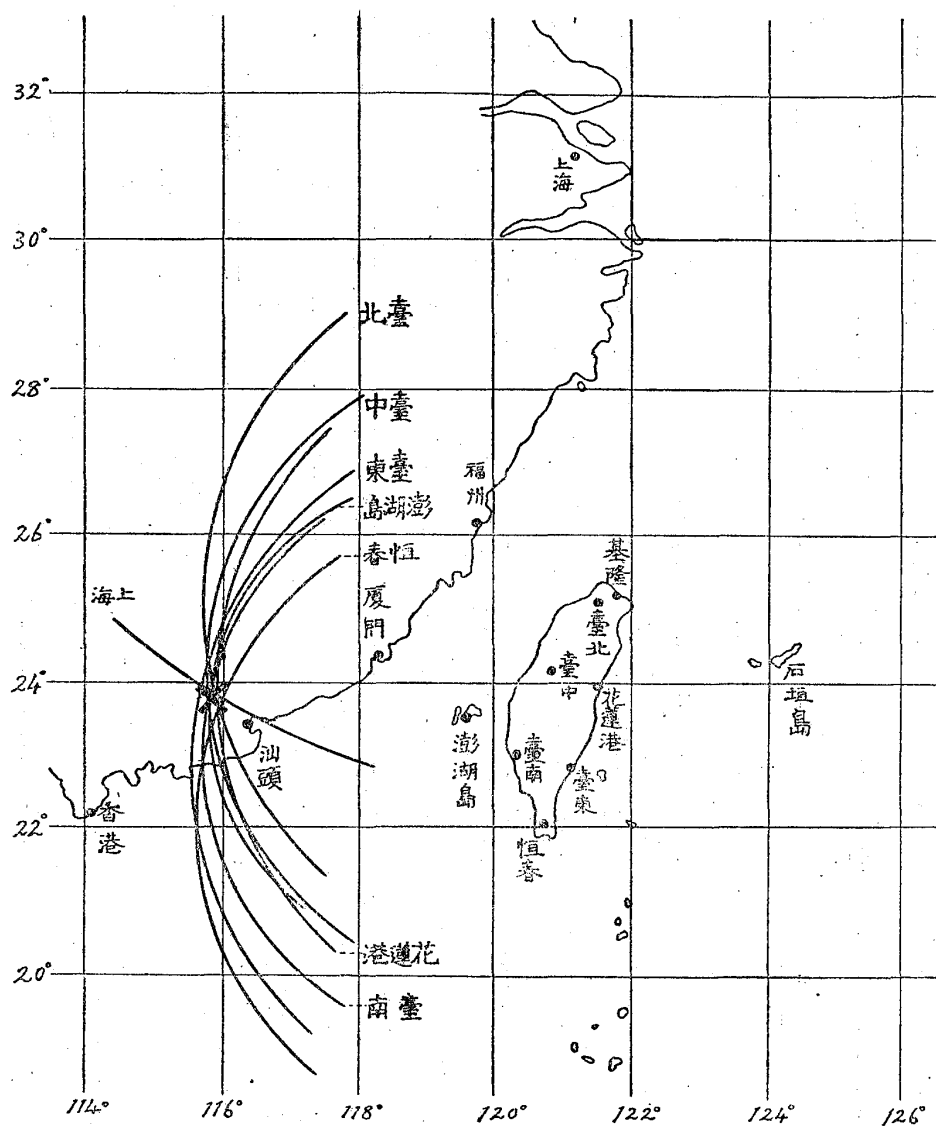
震原 本島各測候所及東京、大阪、徐家滙等ニ於ケル大森式地
動計ノ觀測ニ基キ初期微動ニ據リ震原距離ヲ算出シタルモノ
左ノ如シ

地名	初期微動	震原距離	地名	初期微動	震原距離
澎湖島	四九秒七	三六九呎	臺北	一分一七秒〇	五七一呎
臺南	一分〇一秒一	四五三呎	徐家滙	二分一〇秒八	九六五呎
臺中	一分〇六秒九	四九六呎	大阪	三分四八秒〇	二二一一呎

恒春 一分〇六秒九 四九六籽
 臺東 一分一四秒二 五五一籽
 東京 四分一八秒〇 二四〇七籽

右表中東京大阪ヲ除キ比較的近距离ナル本島各測候所及徐家

大正七年二月十三日汕頭大震々原圖 (×ハ震原ノ位置ヲ示ス)



滙ノ震原距離ヲ半徑トシ各々弧線ヲ畫キ各線ノ交叉集合地點
 フ震原トスレハ別圖ノ如クニシテ大略左ノ地點トス

北緯二十三度四十五分 東經百十五度五十五分

汕頭ノ位置ハ海圖ニ據レハ北緯二十三度廿一分東經百十六度四十分ナルヲ以テ震原ハ同地ヨリ約西北西ニ當リ距離六五籽(四〇哩)ノ邊ニシテ即チ豐順縣地方ニアルカ如シ固ヨリ震原ハ一地點ニアラス廣狹長短アルヘキモ充分ナル觀測ナキヲ以テ詳ナラス各地被害狀況 今回ノ地震ニ就キ各地ノ報告ハ支那的誇大ノ言多ク至ル所「山崩地裂桑田滄海不堪寓目」等ノ語ヲ以テ滿チ其真相ヲ得ルニ苦シム左ニ舉クル所ハ汕頭及廈門ノ新聞ヨリ成ル可ク無用ノ言ヲ省キタル被害ノ狀況及見聞セシモノノ略記ナリ

汕頭 居民ヲ傷斃スル算ナシ大峰祖師(寺院ニシテ無緣者ヲ收容セリ)ニ收埋スルモノ約二百人其他自ラ埋葬シ或ハ土中ニ在テ搬出セサル者數知レス入院者約三百人總計死傷約一千左右ナリ此夜居民露宿及船中ニ

避難シ哀聲至ル所ニ遍ク誠ニ數百年來ノ巨災ナリ是晚小震四、五回十四日午前五時重震アリ第一回ニ比スレハ稍輕キモ尙ホ房屋ヲ倒シ多クハ避難セシヲ以テ傷者甚シカラス是日小震四、五回、十五六ノ兩日小震四、五回、十七日午前五時又重震一回アリ十四日午前ノ地震ニ比シテ稍輕シ既ニ重傷ヲ受ケタル房屋ハ倒塌セシモノアリ

潮州 城ノ内外屋宇全倒十分ノ二、半倒十分ノ四微損十分ノ八ナリ城内壓死者數十人城外ハ未タ確數ヲ知ラス負傷者紅十字會ニ至リ醫療ヲ受クル者七十餘人ノ多キニ達ス其餘傷者幾人ナルヲ知ラス西門外娘宮前蔡厝面南河池墘等ノ所土地裂開惟北堤(韓江沿岸)龍母廟地方裂開數丈甚危險ト爲ス春水將ニ至ラントス修築緊急ヲ要ス或ハ緩ナレハ急ヲ濟ハス義倉ノ粟ヲ發賣シ以テ築堤ノ經費ニ充ツヘシ義倉ハ瓦屋既ニ倒ル

潮陽 巨聲アリ東北ヨリ來リ繼テ地震起ル墻垣ヲ損壞シ皆傾倒ス北巖地方樓閣及佛堂皆倒レテ平地トナル棉田鄉ト豪山巖ハ災害更ニ重ク棉田地裂ケ傷者數十人豪山徑亦地裂ケ古井水滾々升上ス

揭陽 死傷數十人溪南、西洋、楓口、溪口ノ四所最甚シク全鄉傾倒シ變シテ平地トナル城内房屋損壞スルモノ十分ノ九傾倒十分ノ五

澄海 城廂内外屋宇崩倒數十ヶ所ヲ下ラス負傷數十人死者十餘人其最モ異ナルハ各所堤圍多ク震裂シ而シテ南洋鄉以北ハ裂所ヨリ水ヲ湧出ス南洋袋頭、東隴等ハ縣城ヨリ被害甚シ饒平 巨聲アリ北ヨリ南シ始テ大震ス城ノ内外壓死者百數十人傷者算ナシ

大埔 小舊住屋傾塌シ城内官山上ノ王姓唐姓等ノ崩塌スルモノ數家アリ大餘ハ墻裂スルモノ多數ヲ占ム瓦解ハ全體皆然リ人皆倉皇走避シ足部ヲ負傷スルモノ多シ各鄉損失比較稍輕シ唯許梓村倒屋十餘間ナリト云フ

惠來 屋宇ノ倒塌アリシモ人命ヲ壓傷セス
普寧 廟廊及屋宇墻垣塌倒數ハ難シ潮來港王姓死者一人林厝窟林姓同死者一人アリ數百年來未タ見サル所約十分ノ後安穩常ノ如シ

梅縣(又嘉應
下稱ス) 縣署頭門兩傍墻壁傾倒シ署後北門金山脚城墻崩裂十餘丈民房墻壁破裂スルモノ數ハ難シ
興寧 其聲雷ノ如ク北ヨリ南ス、數分間後墻舍顛擺シ多ク損壞ス

南澳 震災最甚シク滿城ノ厝家盡ク皆倒塌シ僅カニ康氏祠堂一座ヲ存スルノミ死傷算ナク或ハ臂ヲ折リ或ハ足ヲ斷チ慘狀見ルニ忍ヒサルモノアリ(實見者ノ談ニ依ルモ震災ノ慘烈汕

頭ノ比ニアラスト云フ)

豐順 地震起ルトキ聲雷鳴ノ如ク屋宇傾塌百分ノ二三損壞スルモノ十ノ二三城北ノ湯湖水化シテ白色トナリ象類飯湯ハ晩ニ至テ始メテ原質ニ復ス其後ノ調査ニ依レハ湯波區左嶺鄉房屋崩壞壓死者二人其外ハ器物壓壞スルニ過キス(汕頭宗教病院ノ醫師「ホワイト」氏カ直話ニ依レハ豐順縣下銅盤在住宣教師「ベートン」ノ報告ニ同地方ニテハ大ナル損害ナリ鳴動北東ヨリ來リシカ如シ震動ハ甚不同ニシテ數百碼^ヤヲ隔テ甚シキ相違アリタリト云フ)

蕉嶺 招福鄉龍虎村地方忽地水ヲ湧出シ頃刻ニシテ地陥リ井ノ如シ僅カニ一小潭ヲ爲ス

詔安 民間房屋傾倒二千餘間ノ多キニ達シ、人民傷害亦少カラス

雲霄 房屋塌倒無數人民死傷者甚多シ各村落屋宇全倒スルモノアリ全倒セサルモ亦破裂シ完全ニ堪ヘサルモノ十二一ヲ得ス惟雲城内外大ニ損傷セス

龍溪 東南二門外民屋傾圮數十戸街道華表ノ石亦多ク飛下ス至鄉村屋宅亦多震壇北門外庵下山頭二卿廬舍盡圮石碼店屋倒塌數十戸死傷八九人鎮内丹鳳山則裂一大線黑煙突出ス

汀州 居民惶恐盡ク屋外ニ逃出ス災害較重ノ地全樓傾倒シ負

傷セシモノアリ

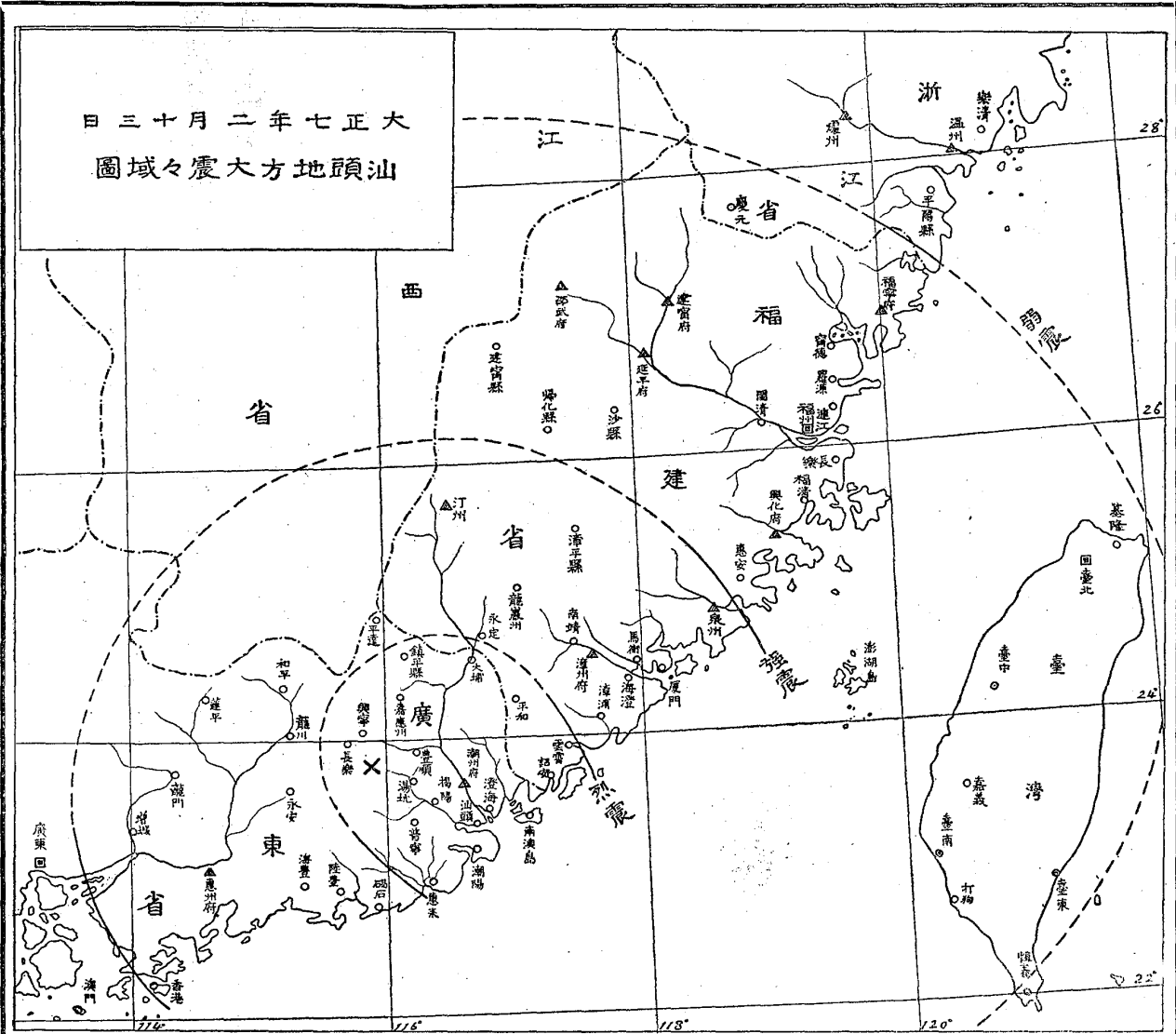
漳州 城内外店屋倒者甚多ク壓傷者アリ
海澄 傾塌多ク村落ニ多少ノ死傷者ヲ出ス

廈門 土塊作り又ハ古キ家屋ハ被害多ク堅牢ナル煉瓦作りハ壁ニ龜裂ヲ生スルニ止マリ屋上煙突ノ倒レタルモノアリ、臺灣銀行支店ハ海ニ臨ミタル新築ナルガ更ニ何等ノ震害ヲ被ラザリキ

泉州 某住宅竟ニ傾倒スルニ至ル墻壁亦多少ノ損壞アリ
香港 被害極テ少ク同觀象臺長ハ震度ヲ「ロッシ、フォーレル」

汕頭地方家屋ノ建築 同地方ノ家屋ハ外見極メテ宏壯ナルニ階若クハ三階建ノモノ多ク外部ハ陶質瓦又ハ飾煉瓦ヲ張り裝飾塗ヲ施シ堅固ナルカ如キモ其實質ハ極メテ脆弱ナルモノニシテ其建築方ハ箱詰造リト稱シ單ニ地面下三四尺ヲ掘リ下ケ

何等基礎工事ヲ施スコトナク直ニ幅二尺長十尺乃至二十尺位ノ木板二枚ヲ以テ間隔普通一尺位ノ梓ヲ作り之レニ蠣灰一ニ對シ粒ノ稍々粗大ナル砂三乃至四ノ割合ニ混合シ水ニテ練リ合セタルモノヲ詰メ一端ニ鐵塊ヲ附シタル棒ヲ以テ搗キ固メ板梓ヲ次第ニ上方ニ移シ二階三階建ノ高サニ築キ上ケ出入口窓等ハ多ク木材ノ梓ヲ用ヒ下層ノ入口ニハ煉瓦ノ「アーチ」積



ハ土塙積ノ高サ六尺ヨリ七八尺厚サ七八寸ノ壁ヲ以テ圍ムモノ甚タ多ク市中至ル所ニ見受クレトモ地震ノ爲メ之レカ倒壞セシモノハ割合ニ少ク視察中見當リシモノ四五ニ就キ之レカ破壞又ハ轉倒ニ要スル震動ノ加速度ヲ計算シ得ルモノ左ノ如シ

(1) 汕頭市街ト鐵道停車場トノ中間新市街ノ箱詰造リノ塙ニシテ高サ約六尺厚サ七寸五分東西ニ長ク建築セラレタルモノ、内ニケ所各六七間宛一ツハ北方ニ一ツハ南方ニ倒壞(寫眞參照)シ倒壞部分ノ高サハ五尺七寸ニシテ其破片ヲ檢スルニ蠣灰ノ混量少ク結合力弱キヲ以テ伸張抵抗力ヲ十封度ト假定ス

切斷ニ要スル地震動ノ加速度 一、〇四七%

切斷セシモノヲ更ニ轉倒セシムルニ要スル地震動ノ加速度 一、二八八%

(切斷面ハ下方ニ向テ少シク弓形ヲナセリ)

(2) 崎嶇海岸通り所在南面道路ニ面スル箱詰造リ高サノ壁六尺五寸厚サ七寸五分長サ約十五間ノ内七間根元ヨリ北方ニ倒ル破片ノ結

或ハ石材ノ粹ヲ用フルモノアレトモ要部ニ煉瓦又ハ木材等ノ柱ヲ用フルモノ極メテ稀ナリ而シテ直角ニ會スル各壁間ニ何等接合ノ注意ヲ用フル事ナク各平面ノ壁毎ニ別々ニ積ミ上ケ單ニ上塗りヲ以テ接合シ各階ノ床及屋根梁ハ木材ノ兩端ヲ壁中ニ四五寸宛挿入スルニ過キス寸毫モ耐震的考慮ヲ用ヒシモノナシ其建築費ハ極メテ低廉ニシテ厚サ一尺ノ箱詰壁一方丈即チ我カ三坪弱ニ對シ普通僅カニ銀十元乃至十二元ニ過キス又砂ト少量ノ蠣灰ヲ混シテ造リタル土塙ヲ同シク砂ト蠣灰トノ膠泥ヲ以テ積ミ上ケタル建築物モ少カラサレトモ其耐震力ハ箱詰造リト大差ナク殊ニ二階三階ノ「ベランダ」造リハ主家ノ壁ノ前面ニ箱詰若クハ土塙積ノ柱ヲ建テ主家ニ連結シテ床ヲ張り屋根ヲ葺キタルモノナレハ普通ノ窓ヲ有スル建物ニ比シ耐震力更ニ微弱ナルヘク純煉瓦造若クハ木造家屋ハ同地ニ於テ殆ント皆無ナリ斯カル建築ナリシ爲メ震災頗ル甚シ潮汕鐵道公司事務所宿舍及汕頭停車場所在地ハ韓江ニ接シ殊ニ極メテ卑濕ノ地盤ニシテ其建築ハ等シク箱詰平屋造リナルモ基礎工事トシテ地中ニ多數ノ丸太ヲ打込ミ約一呎ノ「コンクリート」ヲ打チ各壁ノ間ニ竹材ノ接合裝置ヲ施シタル結果今回ノ震災ニ窓入口等ノ四隅ニ輕微ノ龜裂線ヲ生シタル程度ニ止リ損傷甚輕微ナリ又市内ノ支那料理店樓外樓ハ四階建壺

春樓ハ三階建箱詰造リノ宏壯ナル家屋ニシテ左程堅牢ナル建築ニハアラサレトモ壁ノ要所ニ煉瓦柱ヲ用ヒ又家屋ノ内部數ヶ所ニ木材ノ柱ヲ用ヒタリシ爲メ殆ント被害ナク依然營業ヲ繼續ス日本領事館ハ純然タル箱詰造リノ二階建ニシテ建築ニ稍注意ヲ用ヒタリトノ事ナルガ二階以上ハ大破ヲ蒙リ方魚型ノ屋根ハ僅カニ墜落ヲ免レ家屋全體トシテハ頗ル危險ニ瀕シ全部ノ改築ヲ要スヘキモ階下ハ壁ノ接合部ニ少シク龜裂ヲ生シタル程度ニ止マリ被害比較的輕微ナリ廣州街ヨリ崎碌ニ通スル海岸通りニ建築中ナル蘭人ノ教會堂ハ同地唯一ノ鐵筋「コンクリート」ト人造石積トヲ混合セシ建築ニシテ現下二階迄ノ建築ヲ了シ下階ハ人ノ居住スルアリシカ今回ノ地震ニ微小ノ被害ヲモ蒙ラサリシト云フ

要スルニ今回ノ地震ニテ大損害ヲ蒙リタルハ純然タル箱詰若クハ土塙造ノモノ、ミニシテ二階建以上ノモノハ殆ント悉ク全壞半壞又ハ大破シ其平家建ノモノハ數ニ於テモ僅小ナレトモ極メテ粗造ナルモノヲ除キ甚シキ災害ヲ蒙ラス要所ニ煉瓦柱ヲ用ヒタルモノハ二階建三階建ナルモ被害輕微ニシテ鐵筋「コンクリート」造ハ其例只一戸ニ止ルモ些少ノ損害ヲモ蒙ラサリキ
汕頭ニ於ケル震度 同地ニ於テハ邸宅又ハ所有地ヲ箱詰若ク

合力稍々強キヲ以テ伸張抵抗力ヲ十五封度 假定ス

切斷ニ要スル地震動ノ加速度

一、二〇一秒

切斷セシモノヲ更ニ轉倒セシムルニ要スル地震動ノ加速度

一、一二九秒

(切斷面ハ殆ント平面ニ近シ)

(3) 崎祿敷島旅館北東方約一町所在民屋境界ノ土塙積塙高サ七尺厚サ八寸五分東西ノ長サ約七八間ノモノ全部根元ヨリ北方ニ見事ニ倒ル其積合「モルタル」ハ可ナリ堅固ナルモ其根元ノ地盤ハ極メテ卑濕ニシテ汚水ニ浸潤シアリ蠣灰「モルタル」ナルヲ以テ切斷部ノ伸張抵抗力ハ甚タ微弱ナリシナルヘク少シク過大ナルヘキモ之レヲ十封度ト假定ス

切斷ニ要スル地震動ノ加速度

七八九秒

切斷セシモノヲ更ニ轉倒セシムルニ要スル地震動ノ加速度

一、一九二秒

(切斷面ハ全ク平面ナリ)

(4) 日本領事館附近南北ニ通スル小路ノ西側ニ高サ八尺五寸厚サ六寸五分幅十一尺八寸ノ突立形土塙(箱詰造リ?)地面上約五寸ノ邊ニテ切斷シ西ニ倒レ原形ノ儘其西側約一尺餘ヲ距テル土塙ニ寄り掛レリ伸張抵抗力ヲ十五封度ト假定ス

切斷ニ要スル地震動ノ加速度

六九二秒

切斷セシモノヲ更ニ轉倒セシムルニ要スル地震動ノ加速度

七九六秒

(切斷面ハ少シク下方ヘ弓形ヲナセリ)

(5) 日本領事館北方三四町ノ畠中所在民屋々敷地界ノ箱詰造直

角ニ折レ曲レル高サ十一尺厚サ一尺ノ土塙(寫眞參照)ニシテ東北東ニ面スル部分曲リ角ヨリ長サ二間餘東北東ニ向テ根元ヨリ倒壞シ北々西ニ面スル部分ハ何等損害ナク兩部分ノ接合部ハ見事直線ニ離レ居ルヲ以テ倒レタル部分ヲ單獨ノ壁ト見做シ伸張抵抗力ヲ十五封度ト假定ス

切斷ニ要スル地震動ノ加速度

五六三秒

切斷セシモノヲ更ニ轉倒セシムルニ要スル地震動ノ加速度

八九一秒

(切斷面ハ殆ント平面ナリ)

(6) 前記土塙ヨリ東方約百間ヲ隔ツル畠中所在ノ廢屋ニ土塙積方一尺二寸五分高サ十二尺ノ單獨ナル柱六本アリテ内三本ハ何等損傷ナキモ内一本ハ根元ヨリ一尺ノ高サニテ切斷シ切斷部以上ハ少シモ移動ノ模様ナク其儘ニ直立シ他ノ二本ハ同様ノ高サヨリ切斷シ東方ニ倒レタル痕跡ヲ存スレトモ其破片ハ己ニ何レカヘ取片付ケラレ(調査ノ當日ハ震後十八日目ナリ)果シテ地震動ノ爲メ倒壞セシモノナルヤ調査ノ暇ナカリシモ切斷ノ痕ヲ檢スルニ切斷ノ傷ハ確カニ地震動ノ爲メナルカ如シ接合部ノ伸張抵抗力ヲ十五封度ト假定ス

切斷ニ要スル地震動ノ加速度

八八八秒

切斷セシモノヲ更ニ轉倒セシムルニ要スル地震動ノ加速度

一、二五一秒

(切斷部ハ水平面ナリ)

以上ハ地震動ノ加速度算出ニ便ナル被害物ヲ搜索シ得タル總テナレトモ(1)(2)(3)ノ如キ同種類ノ壁塼ハ市中至ル所而カモ各方向ニ面シ築造セラレタルモノ甚タ多數ナルモ其大多數ハ何等損害ヲ認メサルヲ以テ見レハ以上ノ數例ノモノハ偶然ノ事情ニ依リ破壊シ易キ狀態ニ在リタルモノニシテ地震動ノ加速度一、二〇〇[%]ニ達シタリセハ今少シク多數ノ壁塼ノ破損ヲ見サルヘカラス實際地震動ノ加速度ハ千[%]内外ニシテ恐ラク千[%]百[%]ニハ達セサリシナルヘク災害ノ多大ナリシハ全ク箱詰若クハ土塼造ノ二階三階建多ク地震ニ對スル建築上ノ注意皆無ナリシニ因ルナルヘシ

餘震 汕頭地方ニ於テ十三日大震以來餘震頻々トシテ來リ就中翌十四日并ニ十七日午前五時頃ニ起リシモノハ稍強ク既ニ損傷ヲ被ムリタル家屋ノ内ニハ更ニ傾倒セシモノアリ殆ント一ヶ月ノ後ニ於テ尙ホ毎日一兩回ノ微震ヲ感セリ餘震ノ頻繁ナルハ大震後免レサル所ニシテ一方ヨリ云ヘハ地震漸次安定ニ向フヲ意味シ深ク憂フルニ足ラサルナリ

今回ノ地震ノ起ルヘキ假定 大森博士カ明治四十年震災豫防調査會英文報告第一卷第二冊ニ於テ近世日本地震ノ分布ト題セル報文ヲ掲載シ其末節ニ地中海ヨリ印度「ヒマラヤ」地帶地震活動ノ項目ノ下ニ同地帶ニ沿フテ起リタル近世ノ強烈ナル

地震ヲ擧ケ更ニ是等各地震ヲ連結セル線端ヲ延長シ印度臺灣間ハ近世大震ナキヲ以テ點線ニテ結ヒ早晚大震ノ起ルヲ假定セラレシカ明治四十五年「ビルマ」ニ大正二年雲南ニ大震ヲ起シ今ヤ又汕頭ニ大震ヲ起スニ至レリ十年前ニ於ケル大森博士ノ假定カ今日ニ於テ現實セルハ學術上頗ル興味アル問題タラスンハアラス

之ヲ要スルニ今回ノ地震ハ區域頗ル廣大ナルモ支那ノ如キ交通不便ナルト諸制度不備ナル地ニ在テハ到底詳細ナル報告ヲ得ル能ハス而シテ汕頭附近一帶ノ地ニ於ケル震災ノ慘烈ナリシハ地質ノ軟弱ナルト家屋建築ノ粗造ニ起因シ若シ如此キ程度ノ地震カ我内地ニ起リタリトセハ其被害ハ甚タ少數ナルヲ疑ハス今回ノ震災地方ハ暫ク安定シ靜穩ナランモ又安定ヲ失スルコトアルヘシ隣接地方ニ在テモ地震ノ起ルナキヲ保セス今後幾年ノ後ニ來ルヤ知ル可ラサルモ地震起リ易キト云フヲ寧ロ適當トス左レハ家屋建築ニハ耐震的考慮ヲ決シテ閑却ス可ラス

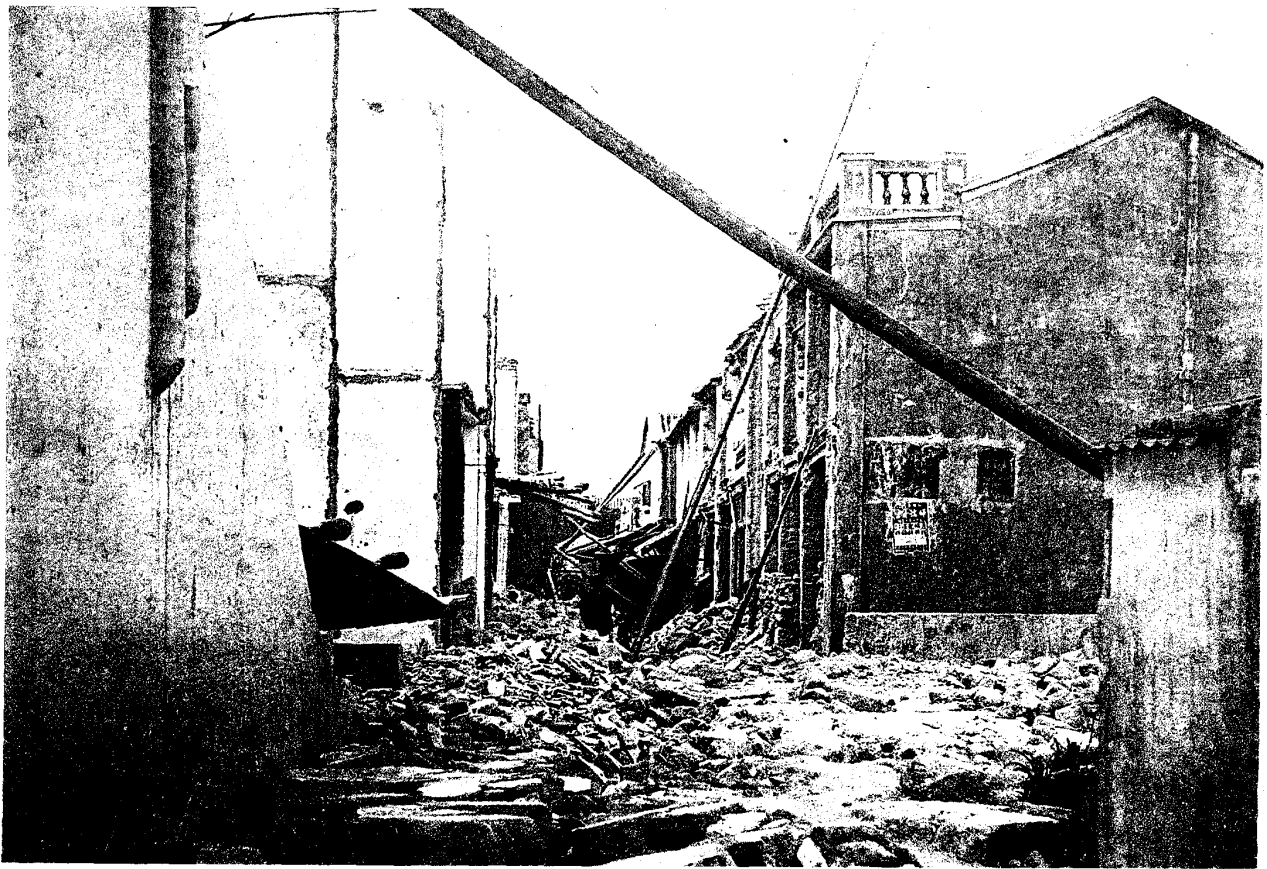
大正七年三月二十九日

臺北測候所

震地大頭油 日三十月二年七正大

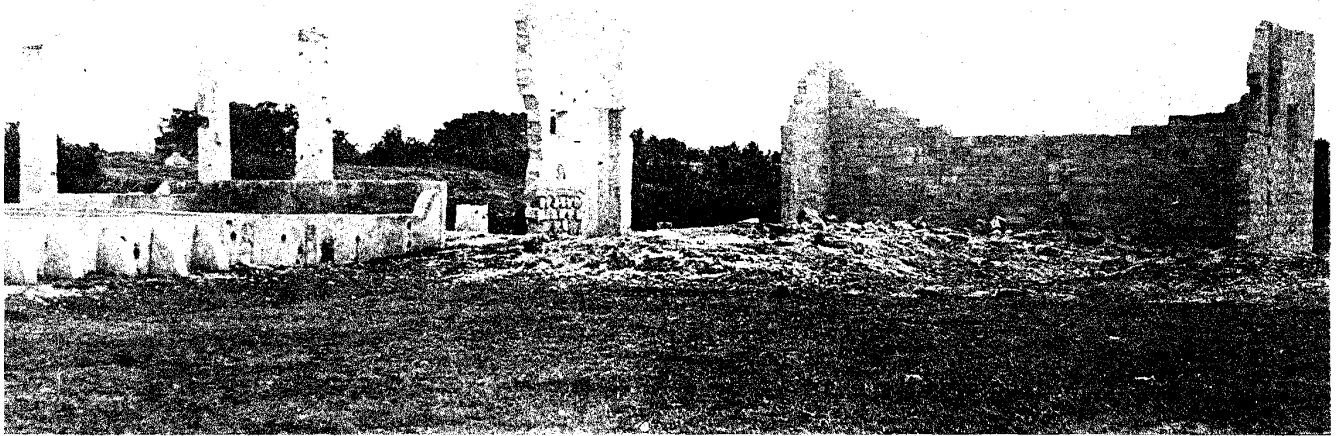


破大ノ屋家建階二造詰縮地街市新西北ノ街市頭油 圖二第
ス壞倒ク全部半前ノ方南テシニ尺一サ厚ノ壁



壞破屋家ノ側兩路道ルズ通ニ東北リヨ西南近附館事領本日頭油 圖六第

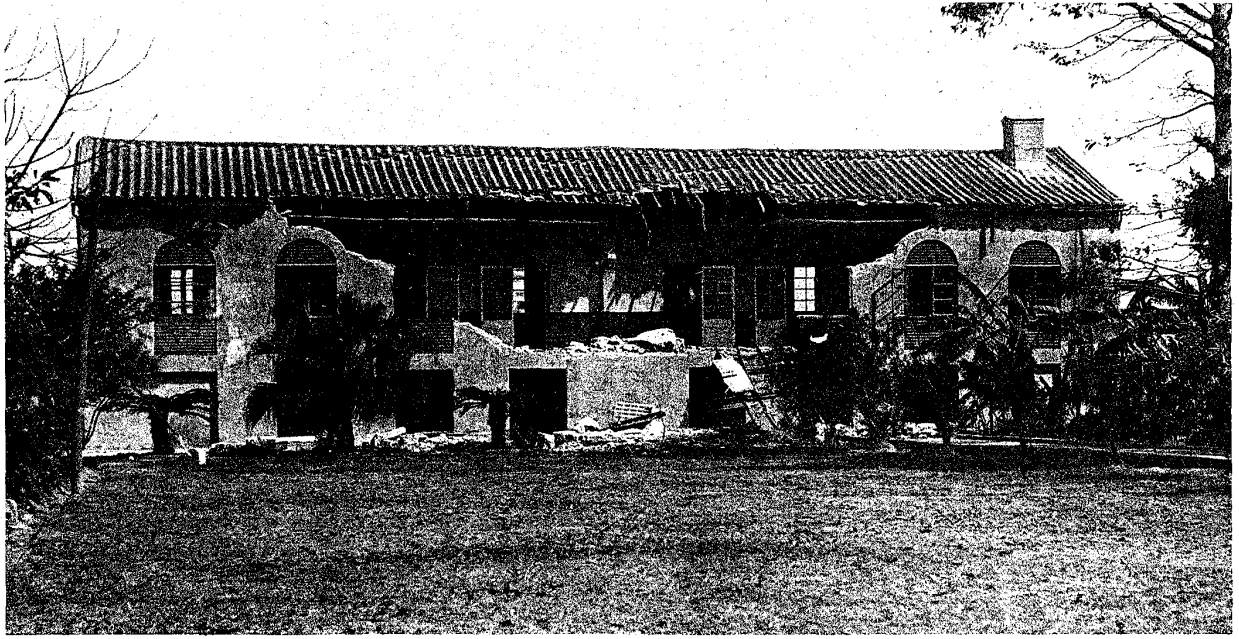
震地大頭汕 日三十月二年七正大



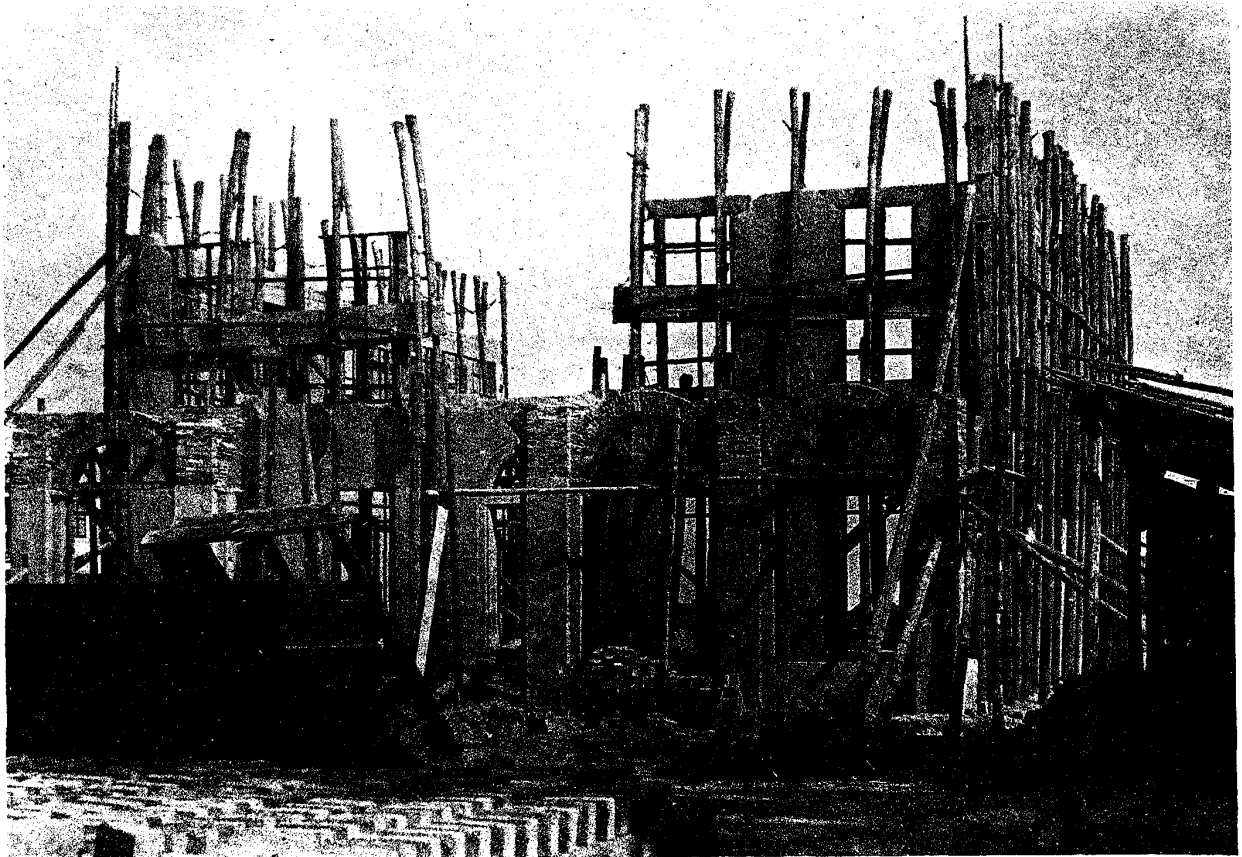
損破ノ屋廢ノ中島方東北館事領本日頭汕 圖八第



壞破ノ屋家造階二建戶一近附館事領本日頭汕 圖七第



壊破ノ屋家人外隣西館旅島敷碌崎頭油 圖十第
ス面ニ海テ距ヲ路道ビ及園庭ハ方南



屋家ノ中築建ニ傍ノ堂會教人蘭碌崎頭油 圖三十第
ス示ヲ様模ノ造建壁詰箱

寫眞說明

- (1) 汕頭市街ノ北西新市街地塀壁倒壞 厚サ七寸五分高サ六尺東西ニ長キ壁ニシテ六七間宛ニテ所一ツハ南方ヘ一ツハ北方ヘ倒壞ス寫眞ハ其南方ヘ倒レタルモノ切斷部以上ノ高サ五尺七寸
- (2) 同所附近箱詰造二階建家屋ノ大破 壁ノ厚サ一尺ニシテ南方ノ前半部全ク倒壞ス
- (3) 同所停車場通北ヨリ南ヘ通スル市街ニ於ケル二階建家屋表側ノ壁悉ク道路ニ面シテ四五寸乃至七八寸位傾斜シ各戸丸太ノ支ヘヲ施シタル狀況
- (4) 同上道路ノ東側南端家屋ノ大破 壁ノ厚サ八寸乃至九寸左方ノ小屋ハ避難所ナリ
- (5) 阜頭附近稅關建物ノ大破 建物ハ東西ニ長クシテ南ニ面シ壁ノ厚サ一尺乃至一尺二寸
- (6) 日本領事館附近南西ヨリ北東ニ通スル道路兩側ノ家屋破壞
- (7) 同所附近一戸建二階造家屋ノ破壞
- (8) 同所ノ北東方島中廢屋ノ破損 土塀積凹字形ノ廢壁(凹部ハ西南西ニ面ス)中部ノ上方高サ三尺程西南西ニ向テ崩落シ兩袖ノ端モ多少崩壞セリ此壁ニ連ナリ同シク土塀積方一尺二寸五分高サ十一尺五寸ノ獨立セル廢柱六本アリ其内三本ハ何等損傷ナキモ内一本ハ地上ニ一尺五寸ノ所ニ切斷ノ傷アリ二本ハ下部一尺五寸ヲ殘シ東方ニ倒レタル痕跡アレトモ其破片ナシ
- (9) 同所附近島ニ面スル土塀倒壞 鍵ノ手ノ壁厚サ一尺高サ十一尺東北東ニ面スルモノ約三間隔ヨリ見事ニ離レ倒壞ス
- (10) 崎嶇數島旅館西隣外人家屋ノ破壞 南方ハ庭園及道路ヲ隔テ海ニ面ス
- (11) 同旅館ノ北東方ニ新築中ノ家屋大破
- (12) 廣州街通り二階建家屋ノ倒壞 日本人俱樂部ノ北側ヨリ望ミタルモノニシテ兩側ノ倒壞家屋ハ南々東ヨリ北々西ニ通スル道路ノ兩側ニ建テ連ネタル家屋ノ北々西端ノモノナリ壁ノ厚サ一尺内外
- (13) 崎嶇蘭人教會堂ノ傍ニ建築中ノ家屋 箱詰壁建造ノ模樣ヲ示ス (寫眞ハ都合ニヨリ第二、六、七、八、十、十三ノ六圖ノミヲ印刷セリ)

潮州及ビ福州地震表 (臺北測候所調査)

潮州地震年表

潮州府誌ハ乾隆辛巳(二十六年)重修ナルヲ以テ今ヨリ百五十有餘年前ノ刊行ナリ同府誌ノ災祥中ヨリ地震ニ關スル記事ヲ拔萃シ以テ本年表トス潮州府下ハ當時海陽、澄海、潮陽、揭陽、惠來、饒平、大埔、普寧及豐順ノ九縣ニ區分シ各縣ノ災祥ヲ各別ニ掲載セルモ本表ハ同年同文ノ記事ハ略シテ各縣名ノ下ニ一括シ逐年洋曆ト對照ス九縣中獨リ豐順縣ニハ何等ノ記事ナシ蓋シ同地方ハ山間ノ僻地ニシテ記錄ノ存スルモノナキニ由ルナランカ

三正綜覽中明末ニ崇正ノ年號ナシ崇禎ノ年號ト干支相對セリ孰レカ誤リナラン又崇正十七年ハ清ノ順治ニ改元ノ年ナリ從テ洋曆ハ同年數ヲ示セリ

支那年號	洋曆	地震記事
(宋)治平四年丁未	一〇六七年	(海陽縣、潮陽縣、揭陽縣)地震湧泉湧房椽傾倒軍民死者甚衆
熙寧元年戊申	一〇六八年	(海陽縣、揭陽縣)地震
(明)永樂元年癸未	一四〇三年	(海陽縣、潮陽縣)地震
正德三年戊辰	一五〇八年	(海陽縣)冬十月地震(揭陽縣)冬十月地震有聲如雷
同	十四年己卯	一五一九年 (海陽縣)地震(饒平縣)秋八月地震
同	嘉靖十四年乙未	一五三五年 (揭陽縣)夏五月地震
同	十七年戊戌	一五三八年 (海陽縣)春二月地震有聲如雷三(潮陽縣、大埔縣)春二月地震
同	二十三年甲辰	一五四四年 (大埔縣)春正月地震
同	三十四年乙卯	一五五五年 (大埔縣)冬十一月朔夜地震
同	四十四年甲子	一五六四年 (海陽縣)地震

萬歷 三年乙亥 一五七五年 (海陽縣)夏六月地震

同 二十五年丁酉 一五九七年 (揭陽縣)秋八月初三日夜初更地震屋響如掀瓦庶民驚走至十八日辰時又震池塘中水溢北又還南移時乃定

同 二十七年己亥 一五九九年 (潮陽縣)地震

同 二十八年庚子 一六〇〇年 (揭陽縣)秋八月念三日夜地大震檣屋傾倒翌日下後又震(惠來縣)秋八月地數震至二十三日酉時又大震有聲如雷墻垣皆裂二十七日申時又震(大埔縣)庚子春地震

同 二十九年辛丑 一六〇一年 (揭陽縣、大埔縣)地震

同 三十二年甲辰 一六〇四年 (揭陽縣)地震

同 三十三年乙巳 一六〇五年 (惠來縣)春三月地震地震之異連年有之是年為甚(海陽縣、澄海縣)冬十一月地震

同 四十六年戊午 一六一八年 (大埔縣)春二月地震六月又地震

崇正 八年乙亥 一六三五年 (潮陽縣)地震三次冬十一月初四日夜子時地震初七日申時又震(大埔縣)六月地震冬十一月庚申冬至日雷鳴地震

同 九年丙子 一六三六年 (大埔縣)春正月地震

同 十二年己卯 一六三九年 (澄海縣)夏六月地震

同 十三年庚辰 一六四〇年 (海陽縣)冬地震(揭陽縣)地震震海潮溢

同 十四年辛巳 一六四一年 (澄海縣)秋八月海溢地震

同 十五年壬子 一六四二年 (揭陽縣)自同十四年辛巳冬至十五年春三月地震

同 十四年辛巳 一六四一年 (揭陽縣)冬十月二十四日夜地大震有聲如雷自西而東南倒墻壞屋桃山鄒堂等處地裂山崩壓死人物至次日地生毛赤黑色長四五寸以後連震至十一月十九殆無虛日(惠來縣)冬十月二十四日夜地震聲如雷二十九日又震

同 十五年壬子 一六四二年 (揭陽縣)自同十四年辛巳冬至十五年春三月地震

崇正 十六年癸未 一六四三年 (普寧縣)冬地大震

同 十七年甲申 一六四四年 (潮陽縣)春二月朔戌時地震 (清)順治 元年甲申 一六四四年 (揭陽縣)夏五月地震三次秋八月念五地震如雷

同 二年乙酉 一六四五年 (揭陽縣)閏六月念九日地大震妖言四起

同 三年丙戌 一六四六年 (揭陽縣)春二月初五日地震城內外天雨紅

同 五年戊子 一六四八年 (揭陽縣)秋九月二十八日夜地鳴

同 六年己丑 一六四九年 (揭陽縣)春二月初二日地震

同 八年辛卯 一六五一年 (揭陽縣)夏四月初三日地大震有聲

同 十五年戊戌 一六五八年 (惠來縣)春二月十四日夜丑時地震

同 十六年己亥 一六五九年 (潮陽縣)春二月地大震(揭陽縣)春二月初八日地震十五日又震

康熙 五年丙午 一六六六年 (揭陽縣)夏四月初八日夜地裂一縫有白氣冲天其裂處紅色衆音喧嘩如人聲(海陽縣)九月地震二次(潮陽縣)冬地震自北而南頃復震

同 六年丁未 一六六七年 (惠來縣)秋九月初九日夜地大震

同 九年庚戌 一六七〇年 (揭陽縣)夏四月十二日地震冬十一月十六日地震(海陽縣、澄海縣、饒平縣)冬十一月地震

同 九年壬子 一六七二年 (揭陽縣)秋七月初七日地震

同 十一年壬子 一六七二年 (潮陽縣)秋七、八月地震冬十二月又震

同 十八年己未 一六七九年 (揭陽縣)秋七月地震

同 二十四年乙丑 一六八五年 (潮陽縣)春正月地震(普寧縣)春正月初五日未刻地震震少頃即已

同 四十一年壬午 一七〇二年 (大埔縣)秋冬地震

同 五十七年戊戌 一七一八年 (海陽縣)六月初八日地震有聲(普寧縣)初八日夜地震

同 六十年辛丑 一七二一年 (潮陽縣)十一月下旬雷鳴地震自東而西

雍正 九年辛亥 一七三一年 (海陽縣)秋九月初二日辰時地震二十二日子

時又震冬十一月二十一日午時又震(普寧縣)
 冬十一月二十一日午未起至未初止地震
 康熙 十一年癸丑 一七三三年 (海陽縣)秋七月十八日地震
 同 十二年甲寅 一七三四年 (海陽縣、潮陽縣)冬十月十三日戌時地震
 乾隆 三年戊午 一七三八年 (普寧縣)冬十一月二十日午刻地震
 同 四年己未 一七三九年 (海陽縣)夏四月初七日申時地震垣屋皆動
 同 十七年壬申 一七五二年 (惠來縣)秋九月十二日酉時地震

福州府地震年表

潮州府ノ隣接地タル漳州府ノ地震年表ハ必要ナルモ目下同府誌ヲ見
 當ラサルヲ遺憾トス福州ハ潮州ヨリ遠隔スト雖トモ對岸地方地震ノ
 如何ヲ知ルノ參考トス

支那年號 洋 曆 地 震 記 事
 隆興 二年 一六四四年 正月福建諸州地震(文獻通考)
 淳熙 十二年 一一八五年 福州地震(宋史)
 咸淳 十年 一二七四年 十月閩中地震(舊福建通志)
 至正 二十七年 一三六七年 十月丙辰福州雷雨地震十二月庚午又震有聲
 如雷(閩書)
 洪武 六年 一三七三年 六月癸酉福州地震十月辛酉又震(閩書)
 同 十三年 一三八〇年 甲戌福州地震(閩書)
 同 二十七年 一三九四年 丙申福州地震(萬曆府志)
 成化 二十年 一四八四年 戊寅夜地震有聲(萬曆府志)
 同 二十一年 一四八五年 十月地震起自西北有聲(萬曆府志)
 同 二十二年 一四八六年 六月己卯地震九月丙寅夜又震(正德府志)
 正德 六年 一五一一年 八月地震後三日地生白毛(舊福建通志)
 同 十二年 一五一七年 四月地震是歲五六震皆有聲(萬曆府志)
 同 十三年 一五一八年 四月雷震常豐倉五月雷震東門大風雨水入城

嘉靖 十年 一五三一年 三尺地震六月十九日夜半長樂海潮突入高二丈餘聲震若雷近海居民多漂流(萬曆府志)
 同 二十九年 一五五〇年 四月長樂太常山鳴(長樂府志)
 同 三十年 一五五一年 長樂地震(長樂縣志)
 同 三十五年 一五五六年 十一月福州地震(舊福建通志)
 同 四十一年 一五六二年 三月地震(世廟實錄)
 同 四十五年 一五六六年 正月朔地震有聲(明史)
 萬曆 元年 一五七三年 三月朔福州地震(閩書)
 同 二年 一五七四年 三月堆木山鳴三日每日鳴七次(羅源縣志)
 同 三十二年 一六〇四年 八月書限空中有聲如雷地大震候官縣方山巨石墜壓田(閩書)
 同 三十六年 一六〇八年 十一月初九日福州地大震有聲至夜動搖不止屋宇將傾墻垣多頽塌(舊福建通志)
 天啓 元年 一六二一年 九月閩縣鼓山石崩有聲如雷
 崇禎 十二年 一六三九年 羅源天堂山連鳴三日(舊福建通志)
 康熙 十一年 一六七二年 連江浦口地裂出血噴激丈餘(連江縣志)
 同 十二年 一六七三年 十月十七日連江縣地大震每晝夜十餘次至十一月二十一日乃止(連江縣志)
 同 十三年 一六七四年 十二月羅源縣連日地震(羅源縣志)
 同 三十年 一六九一年 三月十六夜大雨震電雷碎精忠府鴉尾(舊福建通志)
 同 四十四年 一七〇五年 三月十七日福州地震泥土生毛秋蝗爲災潮水驟溢(福建通志)
 同 十月福州地震(福建通志)